

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0017 名古屋市中区松原 1-17-6 朝日軒ビル3階

HD ニュース

No. 45
2017. 2. 15

今後の予定／於：事務所会議室

3月16日(木)18:30～ 木造技術研究会

3月21日(火)18:00～マンション・ビル大規模修繕研究会

3月21日(火)19:00～ 研修会

住まいのホームドクター／設計者の会の事務所は移
転しました。新住所：左記参照

電話：052-684-4162 FAX：052-684-4164

熊本地震現況視察を終えて――①益城町仮設住宅

理事長 滝井幹夫

地震発生から約9か月後の「今」を建築士3名、
弁護士及び名古屋市会議員各1名の計5名で、1月
22～23日に視察に行き参りました。

熊本空港に降り立った私たち一行は、時おり小雪
や氷雨降る中をレンタカーに乗って、最初に地震被害
の最も激しかった益城町へ向かいました。

車窓から見ても解体済みの更地や崩れたままの建
物、ブルーシートに覆われた建物が増えていく中を
益城町に入りました。

目的のバリアフリー仮設住宅を探す迄に、車窓や
短時間降車して従来型のプレハブ仮設住宅を何ヵ所
か見た後で、やっと目的の仮設住宅に到着しました。

第一印象は、これまでの仮設住宅と格段の違いが
感じられ、バリアフリー機能は当然ですが、木造が
醸し出す温かさ、6戸が対面する共用デッキ広場、
深い屋根と庇、床面が上げられ防湿対策がされてい
る事、ちょっぴり建築士の知識発揮で窓がペアガラ
スであった事等が見て取れました。

外出する住人に短時間聞き取りの結果は「快適で
満足している」と言われた。残念ながら内部視察が
叶わない為に、内部の状況やこの仮設実現の経緯を
知りたいと思い、帰ってきてからネットで確認しま
した。

画像検索ワードは「益城町仮設住宅 熊本地震、
仮設住宅すべて完成 バリアフリー対応も」です。
以下は、益城町役場と熊本県庁住宅課へ疑問を電話
聞き取り、分かった事などをまとめます。

「熊本県下全体で仮設住宅が4303戸、その内
683戸が木造で、被害最大の益城町には木造を含
めて1500戸が建設された。大量に早期の設置が
求められる応急仮設住宅の全てを木造とする事は不
可能だが、熊本県は平成24年の九州北部豪雨被害

の仮設住宅に48戸を木造とした経験があり、早期
復旧が何よりだが、その後の復興も大切と考えてい
る。それには、材料を最大限地元産とし、建設業者
も地元の受け入れ態勢を整える努力を行った。これ
により、地域循環型の復興事業に役立っていると思
っている。仮設住宅の基準面積は29.7㎡だが、
国の了解があれば面積や機能の追加が認められ、益
城町のバリアフリー住宅は面積37.3㎡で、標準
プランの3DKを2DKとして室内で車椅子が回転出来
るように改良し、その他のバリアフリー、断熱・遮
音性能も盛り込んだ。」と言われ、納得しました。



撮影：谷川照雄

本紙バックナンバーは当会のホームページ<http://www.sumaidoctor.or.jp>からご覧いただけます

一昨年、賛助会員から事務局に相談があり「マンション大規模修繕研究会」の有志が携わった「サンパーク津島／長期修繕計画立案」を行いました。その折に緊急を要する工事として、給配水管の更正工事を提案しました。

そして、昨年、「給排水管更正工事のコンサルタント・工事監理業務」の依頼に結びつき、業務を完了しましたので報告をさせていただきます。

当NPO法人は建築士事務所の登録がありません。「長期修繕計画立案」は、コンサルタント業務でしたので、NPO法人名で契約できたのですが、今回は監理業務が含まれます。そこで、研究会で話し合い、片山繁行さんの建築士事務所が代表してコンサルタント・工事監理の業務契約を行い、会員建築士が業務の一部を受託する形で契約を管理組合に提案しました。心配しましたが無事、管理組合の了解を得ることができ、櫻井裕己さんと私が業務の一部を受託する形での契約を締結しました。

物件概要は、SRC造14階建、延床面積約8,180㎡、総戸数59戸で、築29年（2016年現在）です。また、1999年と2011年に大規模修繕がなされています。なお、1・2階は店舗、3階から上階が分譲住戸になっており、管理者がそれぞれで異なります。元々は管理会社が一括管理をしていたのですが、諸般の理由により管理会社との契約については、店舗を除き解約し、住戸区分は住民だけで構成される管理組合で管理されています。今ある図面をCAD化し、今後の改修に備えることも業務に含みました。

工事業者の選定については、給排水管の更正工事を能く行える専門業者は限られており、工法・工期もまちまちです。そこで、我々が3者を選び、現場調査

を経て、住民（管理組合会員）にプレゼンを行いました。工事内容・工期・住戸内作業の日程・水道使用不可日の長さ・工事金額等を比較検討した結果、工事のために各住戸内に入る日数と水道の使用不可日の日数が大きな要因となり、PCGテクニカに頼りました。



カメラ検査立会い



施工前の配管内部

ライニング施工後

一般的な工事監理とは異なり、工事業者の仕様がベースにならざるを得ません。また、上下階の住戸を一斉に工事する必要があります。平日の昼間、住民の方々に家に居ていただくことをお願い・調整を行い住民の協力を得るのに苦労しました。幸い、大きなトラブルも無く工事を終えることができました。なかなかできない経験ができ感謝しております。

■木造技術研究会 2/16 18:30~20:00

次回からのテキスト「世界で一番やさしい木造3階建て」。研修旅行 4/9(日)・10(月)静岡方面について。見学先：秋野不矩美術館（藤森照信）、ロックフィールド（安藤忠雄）、ねむの木学園（藤森照信）、資生堂アートハウス（谷口吉生）、久能山東照宮、浜岡原発・防波壁、豊川稲荷など。

■相談委員会 2/21 18:00~19:00

電話相談当番、HP「Q&A」改定について、次期委員長候補について協議。

■研修会 2/21 19:00~20:00

「インスペクターについて」講師：櫻井裕己
インスペクター委員会の新設について協議。